

6 外国にルーツを持つ人の人権について、あなたのお考えをお聞かせください。

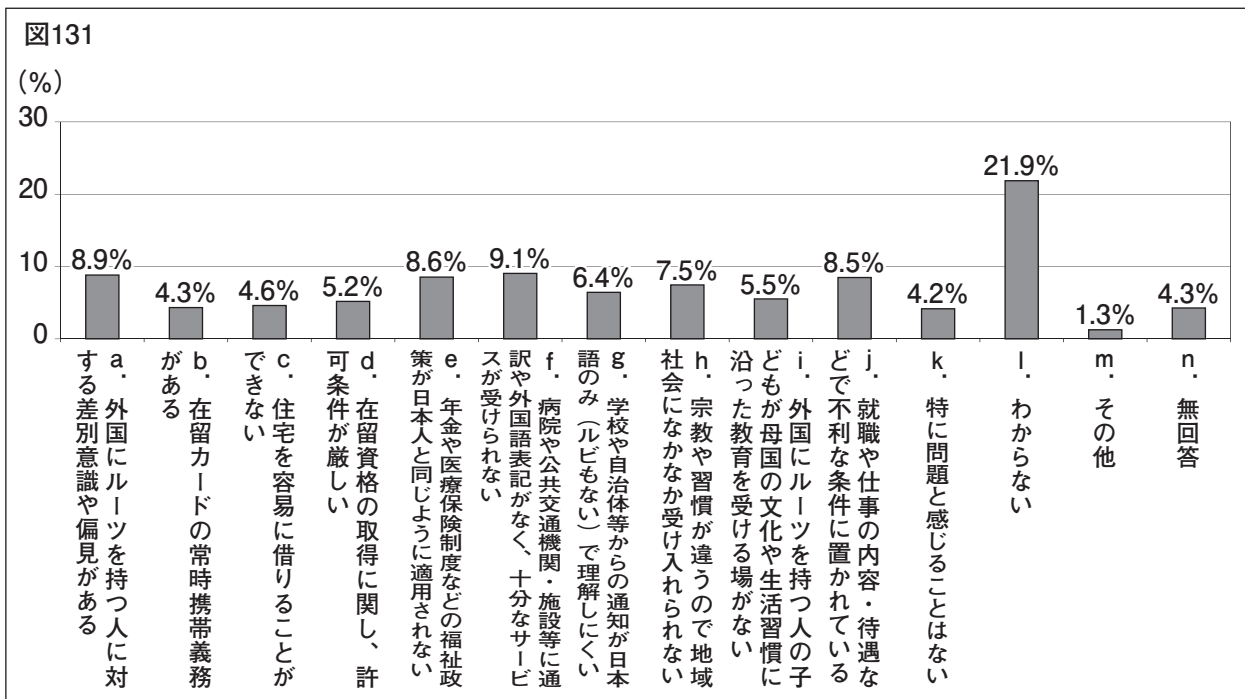
質問23-① あなたは、日本で暮らす外国にルーツを持つ人にとって、どのようなことが支障になっていると思いますか。次の中からあなたの考えに近いものに○をつけてください。(○はいくつでも)

* 「外国にルーツを持つ人」・・・日本に在住する日本国籍を有しない人、又は、両親・祖父母等のいずれかが外国に祖先(ルーツ)を持つ日本国籍を有する人

- | | |
|----|--|
| 1 | 外国にルーツを持つ人に対する差別意識や偏見がある |
| 2 | 在留カードの常時携帯義務がある |
| 3 | 住宅を容易に借りることができない |
| 4 | 在留資格の取得に関し、許可条件が厳しい |
| 5 | 年金や医療保険制度などの福祉政策が日本人と同じように適用されない |
| 6 | 病院や公共交通機関・施設等に通訳や外国語表記がなく、十分なサービスが受けられない |
| 7 | 学校や自治体等からの通知が日本語のみ(ルビもない)で理解しにくい |
| 8 | 宗教や習慣が違うので地域社会になかなか受け入れられない |
| 9 | 外国にルーツを持つ人の子どもが母国の文化や生活習慣に沿った教育を受ける場がない |
| 10 | 就職や仕事の内容・待遇などで不利な条件に置かれている |
| 11 | 特に問題と感ずることはない |
| 12 | わからない |
| 13 | その他() |

〈分析〉

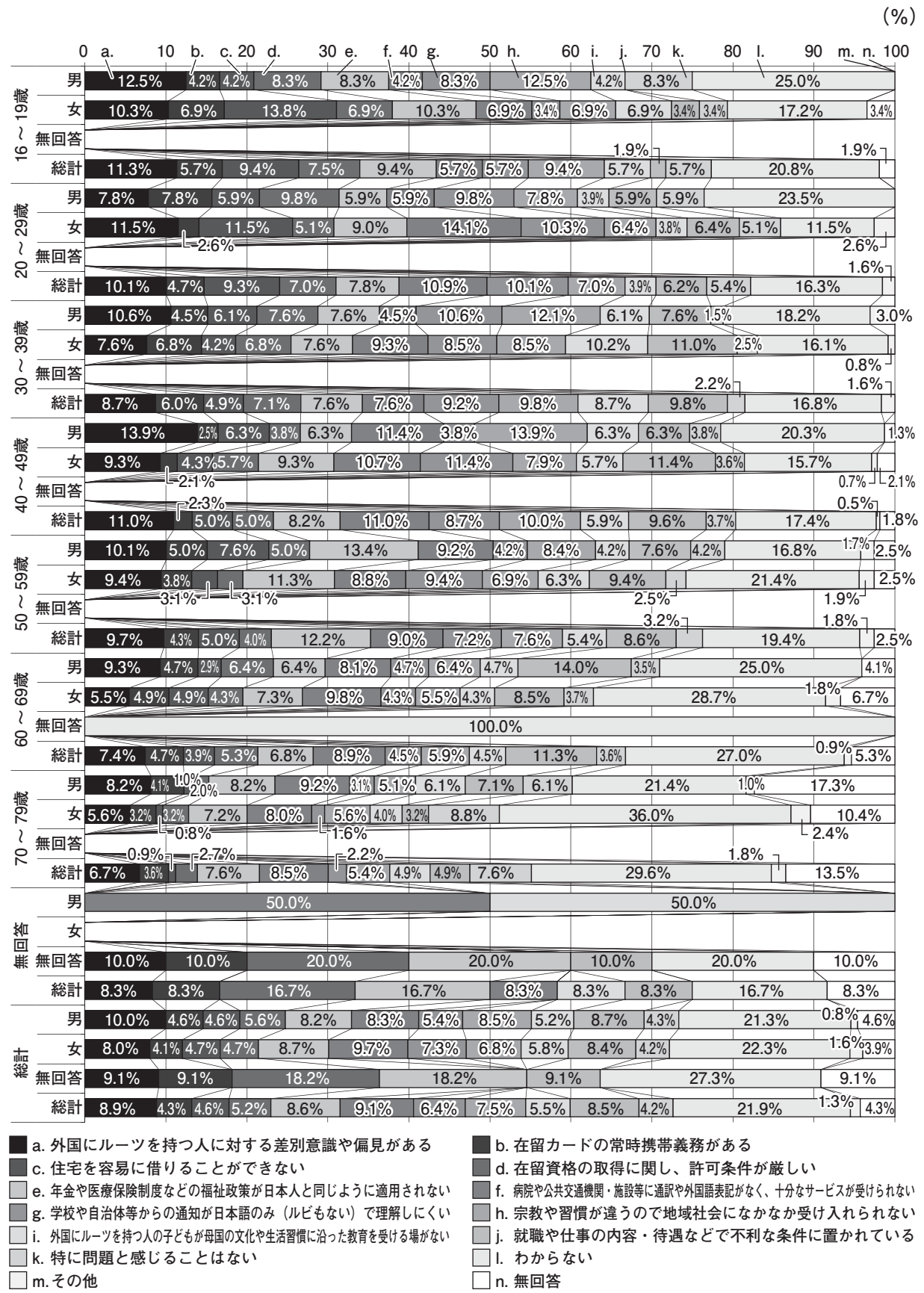
○ 日本で暮らす外国にルーツを持つ人にとって支障になっていることは「f. 病院や公共交通機関・施設等に通訳や外国語表記がなく、十分なサービスが受けられない」(9.1%)が最も高く、次いで「a. 外国にルーツを持つ人に対する差別意識や偏見がある」(8.9%)、「e. 年金や医療保険制度などの福祉政策が日本人と同じように適用されない」(8.6%)の順に高くなっている。なお、「l. わからない」が21.9%あり、最も高い数値となっている。[図131]



○ 性別[図132]では、男女とも「l. わからない」が最も高く、男性が21.3%、女性が22.3%である。次いで「a. 外国にルーツを持つ人に対する差別意識や偏見がある」は男性が10.0%で最も高く、女性より2.0ポイント高い。女性は「f. 病院や公共交通機関・施設等に通訳や外国語表記がなく、十分なサービスが受けられない」が9.7%で、男性より1.4ポイント高い。

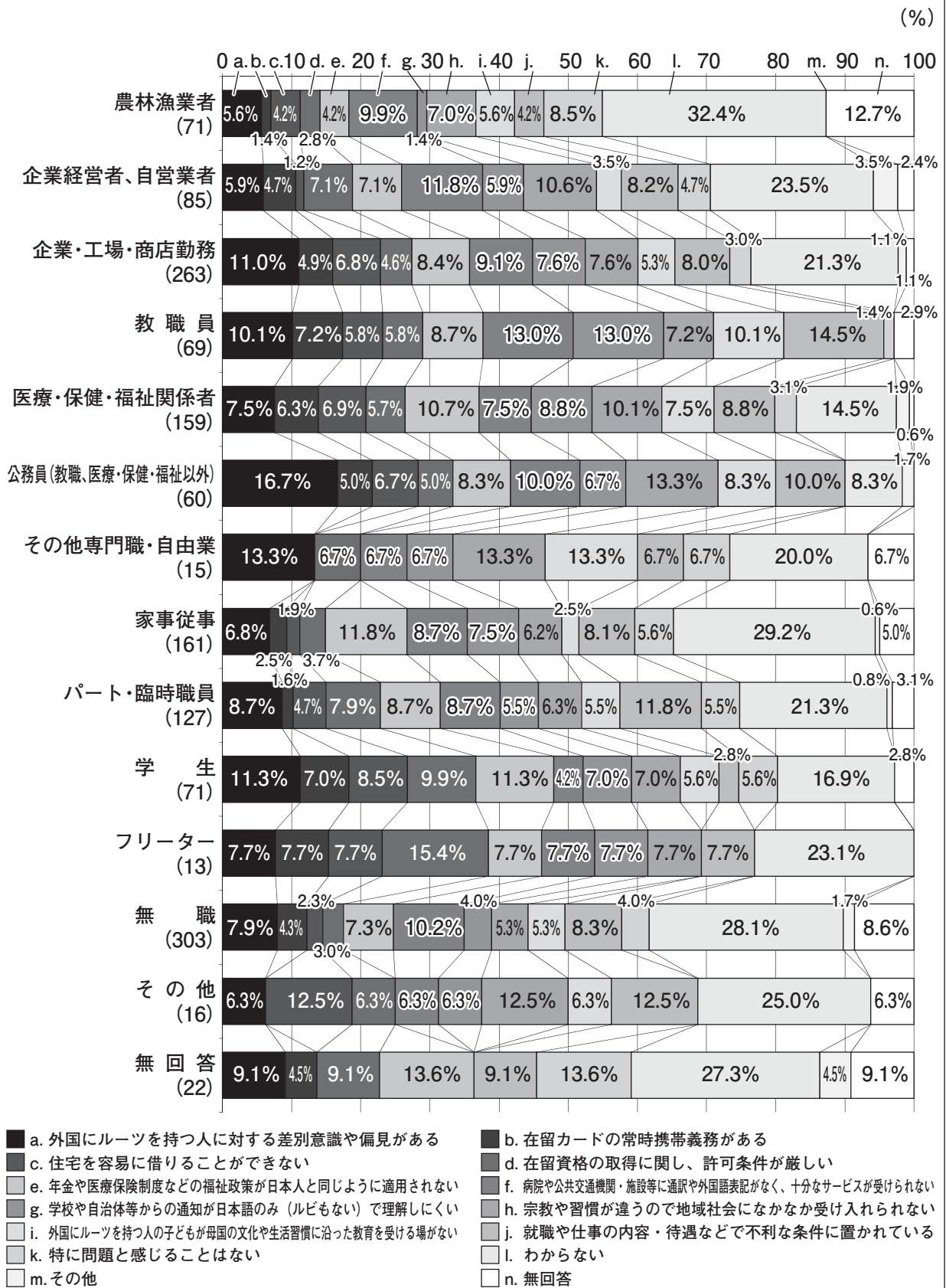
○ 年齢階層別[図132]では、すべての年代で「l. わからない」が最も高く、なかでも70～79歳の29.6%、60～69歳の27.0%が高い。他項目では「e. 年金や医療保険制度などの福祉政策が日本人と同じように適用されない」が50～59歳の12.2%が最も高い。「n. 無回答」が最も多いのは、70～79歳の13.5%である。

図132



○ 職業別[図 133]では、「1. わからない」がどの職種でも高いが、なかでも農林漁業者の 32.4%が最も高い。他項目は「a. 外国にルーツを持つ人に対する差別意識や偏見がある」が、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員が 16.7%と最も高い。次いで、同様の職種で「h. 宗教や習慣が違うので地域社会になかなか受け入れられない」の 13.3% や、その他専門職・自由業の 13.3%も同率で高い。

図133

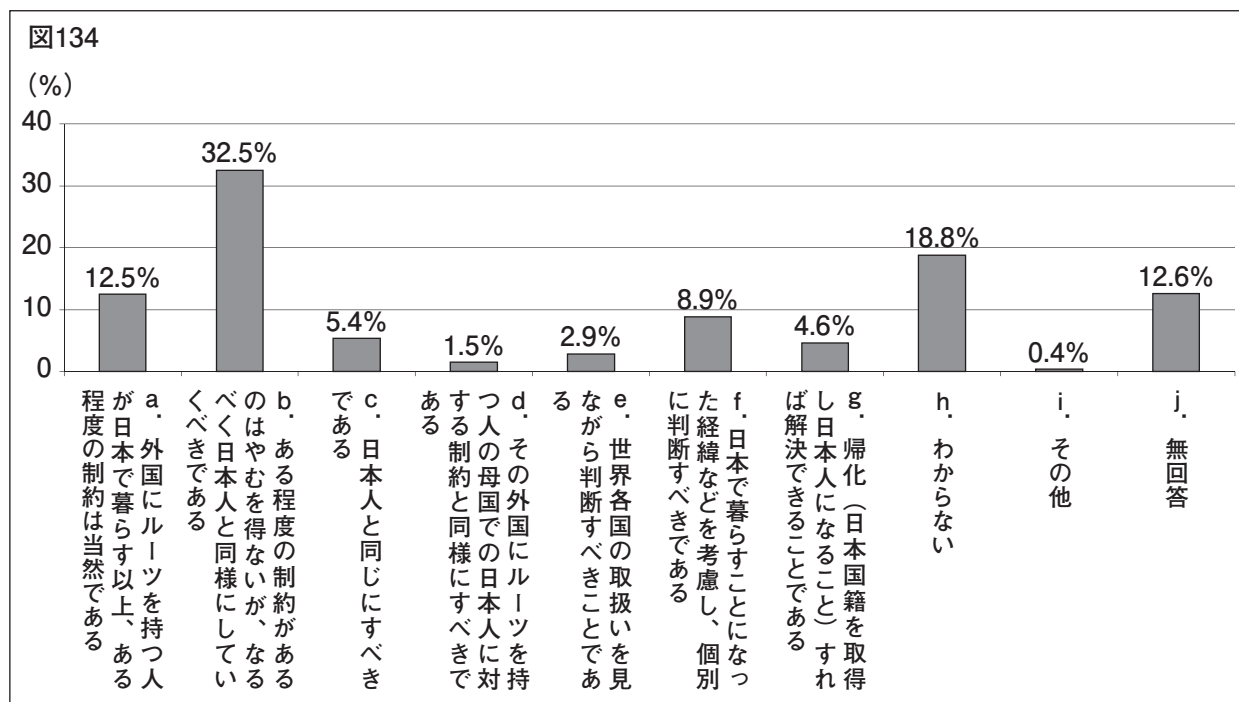


質問23-② 日本で暮らす外国にルーツを持つ人には、在留カードの常時携帯義務や日本国籍を必要とする職業に就職できないなど、制度上の制約がありますが、このことについてどのように思いますか。次の中からあなたの考えに一番近いもの一つに○をつけてください。

- | | |
|---|---|
| 1 | 外国にルーツを持つ人が日本で暮らす以上、ある程度の制約は当然である |
| 2 | ある程度の制約があるのはやむを得ないが、なるべく日本人と同様にしていけるべきである |
| 3 | 日本人と同じにすべきである |
| 4 | その外国にルーツを持つ人の母国での日本人に対する制約と同様にすべきである |
| 5 | 世界各国の取扱いを見ながら判断すべきことである |
| 6 | 日本で暮らすことになった経緯などを考慮し、個別に判断すべきである |
| 7 | 帰化（日本国籍を取得し日本人になること）すれば解決できることである |
| 8 | わからない |
| 9 | その他（ ） |

〈分析〉

○ 日本で暮らす外国にルーツを持つ人への制度上の制約については、「b. ある程度の制約があるのはやむを得ないが、なるべく日本人と同様にしていけるべきである」（32.5%）が最も高く、次いで「a. 外国にルーツを持つ人が日本で暮らす以上、ある程度の制約は当然である」（12.5%）、「f. 日本で暮らすことになった経緯などを考慮し、個別に判断すべきである」（8.9%）の順に高い。なお、「h. わからない」が18.8%、「j. 無回答」が12.6%と高率を示している。[図134]

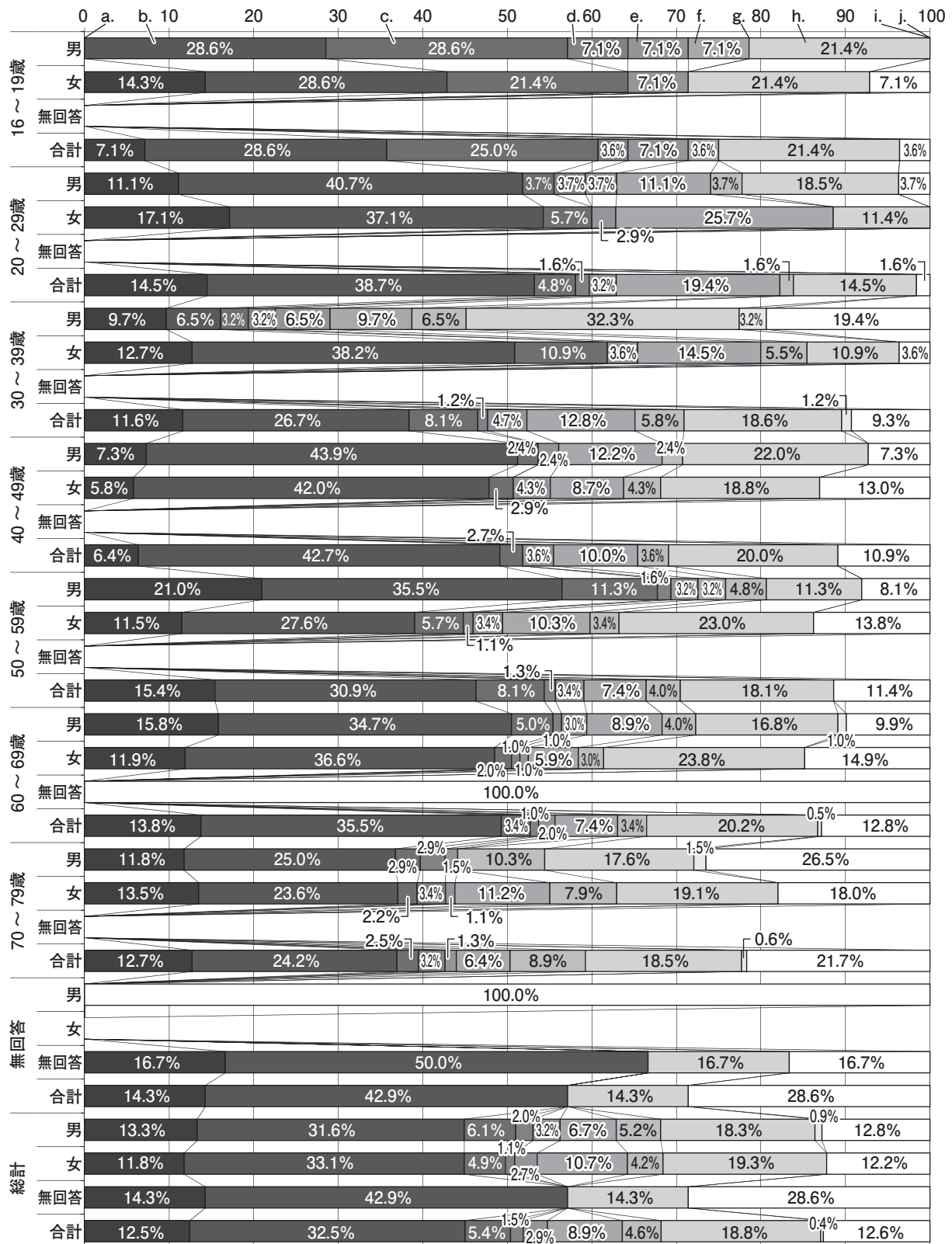


○ **性別**[図135]では、ほとんど差異はない。

○ **年齢階層別**[図135]では、すべての年代で「b. ある程度の制約があるのはやむを得ないが、なるべく日本人と同様にしていけるべきである」が高いが、中でも40～49歳の42.7%、次いで20～29歳の38.7%、60～69歳の35.5%が特に高い。なお、「j. 無回答」は70～79歳の21.7%が高く、「h. わからない」は16～19歳の21.4%が最も高い。

図135

(%)



- a. 外国にルーツを持つ人が日本で暮らす以上、ある程度の制約は当然である
- b. ある程度の制約があるのはやむを得ないが、なるべく日本人と同様にしていくべきである
- c. 日本人と同じにすべきである
- d. その外国にルーツを持つ人の母国での日本人に対する制約と同様にすべきである
- e. 世界各国の取扱いを見ながら判断すべきことである
- f. 日本で暮らすことになった経緯などを考慮し、個別に判断すべきである
- g. 帰化（日本国籍を取得し日本人になること）すれば解決できることである
- h. わからない
- i. その他
- j. 無回答

○ 職業別[図 136]では、すべての職種とも「b. ある程度の制約があるのはやむを得ないが、なるべく日本人と同様にしていけばいい」が高いが、なかでも民間企業や工場、商店に勤める人の41.7%が最も高い。次いで、医療・保健・福祉関係者の37.5%、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員(37.0%)の順に高い。

図136

